

みんなで作る里山プロジェクト自然調査会

2023年10月11日12日
Episode. 6

あすなる しぜん便り



みんなで作る里山プロジェクト自然調査会

シジュウカラ イラスト/竹内 椰

菅生沼やあすなるの里の動植物を子ども調査員が主体となり、「自分の力」で調べ(調査し)、記録を重ねていく体験事業です。みんなの知識を集約しながら互いに勉強します。ステップ・バイ・ステップで大きなデータベースを作ることをめざします。

虫



▲調査前の虫チーム (10月14日)



▲装備もしっかり (10月14日)



▲12月でも気温19℃ (12月9日)



▲同定は難しいけど楽しくなってきた (12月9日)

10月

10月14日(土)9:00~12:00 晴/弱風/13℃

●菅生沼天神山公園

【調査員】上山裕平、畑山起槻、藤井啓、畑山純伶、関健太朗、高見成磨、高見功輝、藤井新、大久保龍馬 (サブリーダー: 沢田明衣)

【リーダー】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目

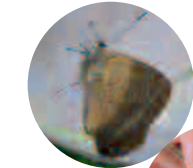
キタテハ
ウラナミシジミ
ウラギンシジミ
ツマグロヒョウモン
ヒメアカタテハ
ベニシジミ
モンキチョウ
モンシロチョウ
ヤマトシジミ

カマキリ目

オオカマキリ
コカマキリ
チョウセンカマキリ
バッタ目
イボバッタ
オンブバッタ
クビキリギス
セズジツコムシ
ツチイナゴ
トゲヒシバッタ
トノサマバッタ

トンボ目

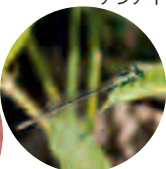
アジアイトトンボ
アオイトトンボ
アキアカネ
オオアオイトトンボ
ナツアカネ
ノシメトンボ
コウチュウ目
クロマルエンマコガネ
コフクソウムシ



ウラナミシジミ



オオカマキリ



アジアイトトンボ



クロマルエンマコガネ



リーダーのメモ

調査開始時は気温が低かったこともあり、虫の数は少なかったが、日が差し、気温が上昇するにつれ、数多くの昆虫を確認できた。あれほど盛んに飛び回っていた大型のトンボ類は姿を消し、アカネやイトトンボだけが確認できた。季節は秋から冬に移行し、昆虫を目にする機会は少なくなります。(リーダー 上山)



昆虫の先生から

猛暑の夏から秋への季節の変化が感じ取れる調査結果ですね。特に秋の特徴はアカネの仲間とバッタの仲間です。この時期ならではの種類が確認できて嬉しかったです。チョウではウラナミシジミが確認できていますね。ただ、近年の秋は、2000年から2002年の3年間旧水海道市で調査した時と比較するとアカアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボともに個体数の減少が顕著であることを感じます。マイアカネ、マユタテアカネもほとんど見られませんでした。どうかこれからもこうした普通種と言われている種の記録も大事にしていってください。これからもあすなるの里の記録を楽しみにしています。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 / 石塚 武彦

11月

11月11日(土)9:00~12:30 晴/弱風/16℃

●菅生沼天神山公園・江川沿い散策路(蓮華寺)

【調査員】上山裕平、藤井啓、杉岡和樹、川島智至、関健太朗 (サブリーダー: 沢田明衣、藤井周)

【リーダー】常総みどりの会(上山耕平、可児修一)

観察した種

チョウ目

イチジクキンウワバ
シロスジアオヨトウ
ゴキブリ目
モリチャパネゴキブリ
カマキリ目
ハラビロカマキリ
バッタ目
イボバッタ
エンマコオロギ
オンブバッタ
コバネイナゴ

ツチイナゴ

セズジツコムシ
カメムシ目
アカスジキンカメムシ
エサキモンキツノカメムシ
ツヤアオカメムシ
ヨコツナサシガメ
トンボ目
アキアカネ
オオアオイトトンボ
コウチュウ目
ナナホシテントウ

ナミテントウ

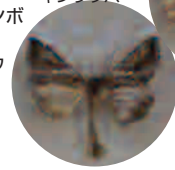
ハチ目

オオスズメバチ(オス)
キイロスズメバチ
ヒメバチの仲間

シロスジ
アオヨトウ



イチジク
キンウワバ



ツヤアオ
カメムシ



ヨコツナ
サシガメ

家で飼育しているカナヘビのえさのコオロギの動きが、寒くなって鈍くなっている。見つけたツチイナゴは動きが激しく、日本の気候に適していて寒さに強いのだと思った。
守谷市/沢田 明衣さん

(この冬も)絶滅危惧種をさがしたい!
埼玉県越谷市/関 健太朗さん

リーダーのメモ

気温が低く、虫の調査をするには条件が厳しかったが、各調査員が熱心に探してくれたので多くの昆虫を確認できた。確認できた昆虫も成虫のまま越冬する種や比較的寒さに強く、初冬まで見れる種が主だった。(リーダー 上山)

12月

12月9日(土)9:30~12:30 晴/弱風/19℃

●下出島 菅生沼(上沼)

【調査員】大久保龍馬、上山裕平、高見成磨、高見功輝、畑山起槻、畑山純伶、藤井啓、関健太朗 (サブリーダー: 沢田明衣、藤井周)

【リーダー】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目

キタテハ
クロオビフユナミシヤク
クロスジフユエダシヤク
ムラサキシジミ
ヤマトシジミ
カタキチョウ
カマキリ目
オオカマキリ
バッタ目
ツチイナゴ
コバネイナゴ

カメムシ目

エサキモンキツノカメムシ
ホシハラビロヘリカメムシ
ヨコツナサシガメ
クヌギカメムシ
ツヤアオカメムシ
クモヘリカメムシ
マルカメムシ
トンボ目
アキアカネ
ホソミイトトンボ
ホソミオツネイトンボ

コウチュウ目

ナミテントウ
キイロテントウ
ハラビロカマキリの卵



クロスジ
フユエダシヤク



ムラサキ
シジミ



クヌギ
カメムシ



ホソミイトトンボ

調査の途中、オオタカを見ることができて嬉しかった。獲物を狙っているのに、僕達を警戒して離れていくのはすごいと思った。来年は、ギンヤンマやオニヤンマなどの大型のトンボをぜひ、採取したい。 つくばみらい市/大久保 龍馬さん

フユジャクが見れたけど採れなくて悔しい。キイロテントウがみつけれられてよかった。アキアカネは口を見て同定できることを初めて知りました。 越谷市/藤井 啓さん

リーダーのメモ

晴天で風もほとんどなく、気温が上がったこともあり、冬の調査には条件が良く、数多くの昆虫を確認できた。なかでも成虫のまま越冬する種が多かった。アキアカネやオオカマキリなどは、傷つき弱っている個体だった。年内の調査は終わりだが、虫を捕まえるだけでなく、各調査員の調べて同定する力が向上していると実感することができた。来年も頑張りましょう。(リーダー 上山)

「似ているからこれ！」という人はもういなくなりました。採取できる場所や時期、ホストの植物、判断の拠り所となる体の特徴など、多角的に調べることが大事だと思います。今の調査隊が来年から先輩として振る舞えると確信しました。今日の裏テーマは「作業の集中」だと思っていましたが、みんな最後にはできるようになっていました。よかった!(リーダー 藤井)

植物



▲秋の気配がいっぱい
(10月21日)



▲じゃましてごめん、
カマキリさん(10月21日)



▲冬の中に春が隠れてた
(11月12日)



▲春の花が咲いてる!
(12月10日)

10月

10月21日(日) 8:20~10:30 晴/無風/17℃

●あすなるの里~菅生沼ふれあい広場

【調査員】福田藍斗

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司、長谷川としえ)

観察した種(★印は希少種)

アオミズ	オオイヌタデ	★タコノアシ
アメリカイヌホオズキ	ゴキツル	ツユクサ
アキノウナギツカミ	カタバミ	ノイバラ
アキノノゲシ	カナムグラ	ヒナタイノコツチ
アメリカセンダングサ	キツネノマゴ	ヒメジョソ
アメリカナシカズラ	マルバアメリカアサガオ	マルバアメリカアサガオ
アリタソウ	サデクサ	ミゾソバ
アレチウリ	シマツクサ	ムラサキツメクサ
アレチヌスビトハギ	シロザ	メリケンムグラ
イシミカワ	シロツメクサ	ヤナギタデ
イヌガラシ	シロネ	ヤブカラシ
ウシハコベ	スズメウリ	ヤブツルアズキ
エノキグサ	セイタカアワダチソウ	



リーダーのメモ

シマツクサが広範囲に拡散しており、台風時の越水などが原因ではないか? などと考察しながら観察しました。気温や気候的には、晩夏が過ぎた頃だなという感想ですが、植物は秋に移り変わっていました。(リーダー 藤井)

12月

12月10日(日) 9:00~12:00 晴/弱風/4℃

●あすなる橋~菅生沼ふれあい広場

【調査員】ボランティアスタッフ

【リーダー】常総みどりの会(長谷川としえ)

観察した種(★印は希少種)

ウシハコベ	シロツメクサ
オニノゲシ	ナズナ
カラシナ	ホトケノザ
カタバミ	ムラサキツユクサ
コセンダングサ実	ミゾソバ
セイタカアワダチソウ種	



▲冬枯れ色の草原に、青々と茂るカラシナ

リーダーのメモ

気温が高いこともあり、春の草花の芽吹きが多くありました。特にカラシナの発育が目覚ましかったです。冬とはいえ、カラシナの花が咲いており、オニノゲシの花も何株か咲いていました。今期の冬はこれまでにないほどの暖かさだったので今後の記録も楽しみです。(講師 川田 いつ子)

11月

11月12日(日) 8:20 ~ 10:30 晴/無風/8℃

●あすなる橋~菅生沼ふれあい広場

【調査員】福田藍斗、川畑海翔、須藤江莉

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司、長谷川としえ)

観察した種(★印は希少種)

アメリカイヌホオズキ	カラスウリ実	セイタカアワダチソウ
アリタソウ	キツネノマゴ	タカサプロウ
アレチウリ	ゴキツル種	★タコノアシ実
イシミカワ実	コセンダングサ	ノイバラ 実
イヌガラシ	サデクサ	ノブドウ実
イヌタデ	シロザ	ハイミチヤナギ
ウシハコベ	シロツメクサ	ハキダメギク
オオイヌタデ	シロネ 実	ヒカゲノイノコツチ
カナムグラ実と花	スカシタゴボウ	ヒメジョオン

カラスウリ(実)



スカシタゴボウとイヌガラシの葉が似ていたが、果実の長さや葉の切れ込み方の違いをみて同定できたので良かった。今後も図鑑でよく調べて覚えていきたい。

下妻市/須藤 江莉さん

リーダーのメモ

暖かい立冬の後の冬到来にみんな「寒い」が第一印象でした。途中の道路に9度の気温表示がありました。まずは秋無しで冬の景観でしたが、花は少ないけれどもいろいろな種や実を観察できました。前の月の観察をもとにこの辺にあるはずと探せるようになって、タコノアシやゴキツル、ノイバラ、カラスウリなど発見。4mにも伸びていたオオバクサが全て茶色に立ち枯れていたことにびっくりしたようです。冬の枯れ草の中に春の野草の芽がたくさん伸びていることに気が付きました。特に春を彩っていたカラシナが勢いよく伸びていて暖かかった秋の影響を感じました。(講師/川田 いつ子)

植物の先生から

スカシタゴボウとイヌガラシなど、よく似た植物の違いを意識しながら調査ができていて、とてもすばらしいと思います。また、ゴキツルの実を上下に割って中の種子を観察しているようですが、ゴキツルのゴキは合器(ごうき)で、これは蓋(ふた)つきのおわんのことです。実の形やつくりがこれによく似ているので名づけられたのでしょう。このように植物の名前の由来を考えたり調べたりすると、さらに興味がわいておもしろいですよ。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館/飯田 勝明



▲コハクチョウ、来てる！
(10月21日)



▲冬鳥もつぎつぎに到着
(11月12日)



▲すごい遠ーい、ねえ。
(12月10日、23日)

鳥



▲にぎやかなコハクチョウの群れ。左端にマガンが！
(12月10日)

10月

10月21日(土)8:00~11:30

曇り/17℃/風の強さ:顔に風をかんじる/風向き:南南東

●菅生沼天神山公園コース(中沼反町間門橋~土手伝い~蓮華寺から折り返し中沼)

【調査員】竹内 椰(サブリーダー:平田 楽) 【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順):26種+外来種1種

カケス	ホオジロ	カワラヒワ	ヒクイナ
ヒヨドリ	シメ	ヤマガラ	コガモ
コジュケイ	カルガモ	メジロ	マガモ
モズ	オオバン	カワウ	カイツブリ
ハシボソガラス	シジュウカラ	アマツバメsp	ダイサギ
キジバト	セグロセキレイ	トビ	ハクセキレイ
アオサギ	ツグミ(仲間の声)	ハシブトガラス	

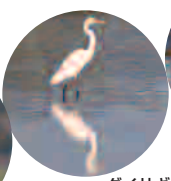
11:45~12:30(菅生沼ふれあい広場) 9種+外来種1種
スズメ チョウゲンボウ カワセミ コハクチョウ(3) コガモ(7) ノスリ(2)
ガビチョウ オナガガモ(2) キジ アカガラ



モズ



シメ



ダイサギ



コハクチョウ

リーダーのメモ

調査終了後、菅生沼ふれあい広場を訪ね、
ハクチョウの渡来を確認しました。(坂入)



11月

11月12日(日)8:45~12:00

曇り/8℃/風の強さ:顔に風をかんじる/風向き:北

●菅生沼ふれあい広場コース(あすなろの里~菅生沼ふれあい広場)

【調査員】竹内 椰 【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順):22種

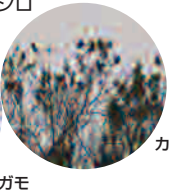
コハクチョウ21	カワウ	クイナ	シジュウカラ
コガモ31	ヒヨドリ	カケス	オオバン
キジバト	アオサギ	チュウヒ	ハシボソガラス
ウグイス	マガモ	ハシブトガラス	カワラヒワ
セグロセキレイ	モズ	ダイサギ	
カルガモ	カワセミ	ホオジロ	



コガモ



マガモ



カワラヒワ



菅生沼で観察したい鳥 **ミコアイサ** 見た目が
かっこよく、九州以北の淡水にいるから。 **キン**
クロハジロ 紫色できれい。全国に来て、湖沼や
池にいるらしいから。 **トモエガモ** 緑色がきれい
いで目の下の線がおもしろい。太平洋側には少
ないそうなので見られたらすごい。
埼玉県草加市/竹内 椰さん

リーダーのメモ

植物チームと一緒に観察。時雨が降りそうな空でしたが、歩くと寒さ
や北風は気にならず爽やかでした。野鳥は「姿は見えるけど、色がわか
らない」との声。飛び方や声は種名を導くためのフィールドサインで
もあります。(坂入)

12月

12月10日(日)9:00~12:00

晴/8℃/風の強さ:顔に風をかんじる/風向き:北東

●菅生沼ふれあい広場コース(あすなろの里~菅生沼ふれあい広場)

【調査員】竹内 椰 【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順):23種+外来種1種

シジュウカラ	スズメ
ガビチョウ	モズ
クイナ	コハクチョウ
コガモ	マガン
バン	タシギ
ジョウビタキ	アオサギ
トビ	ガチョウ
ウグイス	オオバン
オオタカ	カワウ
カルガモ	ダイサギ
ハシブトガラス	カシラダカ
カワセミ	ツグミ



スズメ



マガン



タシギ



ガチョウ



オオバン



カシラダカ

12月23日(土)9:00~11:00

晴/8℃/風の強さ:草や細いえだがゆれる/風向き:西

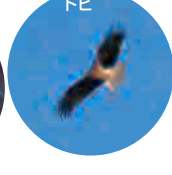
●菅生沼天神山コース(中沼反町間門橋~土手伝い~蓮華寺、
折り返し中沼) 【調査員】平田 楽 【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順):23種+外来種1種

カワラヒワ	アオジ	スズメ	カイツブリ
セグロセキレイ	オオバン	ドバト	キジ
ハシボソガラス	カルガモ	シメ	ツグミ
ヒヨドリ	マガモ	ホオジロ	オオハクチョウ(2)
ウグイス	カワウ	トビ	シロハラ
シジュウカラ	メジロ	モズ	カワセミ



マガモ



トビ



オオハクチョウ



カワセミ

12月23日(土)11:00~12:30

晴/6℃/風の強さ:紙や帽子が飛ばされる/風向き:西

●菅生沼ふれあい広場コース(あすなろの里~菅生沼ふれあい広場)

【調査員】平田 楽 【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順):13種+外来種1種

ジョウビタキ	ハクセキレイ	ハシブトガラス	エナガ
コガモ	ダイサギ	マガン	バン
キジバト	コハクチョウ(49)	アオサギ	
カシラダカ	ノスリ	ガビチョウ	



マガン

鳥の先生から

10月には南方への旅の途中と思われるアマツバメの仲間が、11月には大陸から飛来するチュウヒやコハクチョウやカモの仲間などが記録されました。ぐっと寒くなってアオジやマガンも南下してきました。こうしてじょじょに夏鳥から冬鳥に入れ替わり、通年菅生沼で見られる鳥(留鳥)に混じって、季節の移り変わりが感じられる記録になっています。

さまざまな種が観察できることに、あらためて菅生沼の自然環境の奥深さを感じられます。 日本野鳥の会茨城県 副会長/内田 初江

協力: ミュージアムパーク茨城県自然博物館

日本野鳥の会茨城県

自然科学教育普及団体地球レベル

有識者: 内田 初江/林 恵治/川田 いつ子/川村 直央

写真協力: 大久保 千春/藤井 悟司/可見 修一/平田 楽

調査員サポート: 保護者の皆様

ボランティア: 自然観察同好会常総みどりの会

編集: gaia graphics

企画: (一財)水海道あすなろの里 自然教室担当・指導員 坂入 真史

発行日: 2024年2月1日